

地域愛着に着目した防災活動参加意向者の防災意識分析

愛媛大学大学院 学生会員 ○西優汰 広島市役所 非会員 西山良太
愛媛大学 正会員 二神透

1. はじめに

自然災害の多い日本では、これまで様々な防災体制の整備が行われてきた。しかし、大規模災害においては国や地方公共団体などの行政機能が十分に働かず、被災者を十分に支援できないケースも少なくない。大規模災害時においては、国や地方公共団体に頼るのではなく、自分で自分の命を守る自助、家族や近隣住民と共に助け合う共助といった住民の自発的な防災活動の責務の重要性が大きくなってきている。そのため、住民の防災意識向上の規定要因を検討することは非常に重要な課題である。そこで、本研究では、防災意識向上の規定要因として地域愛着に着目し、自分の住んでいる地域に対する評価・愛着が防災意識にどのように影響を与えているのかを明らかにする。本研究を通して、住民の防災意識向上を図り、今後の大規模災害時の被害縮小に繋げていく。

2. 研究概要

本研究では、愛媛大学に在籍している一般学生と、愛媛県内で活動している防災活動団体「防災リーダークラブ」所属学生を対象に地域防災についてのアンケート調査を行う。アンケート結果から、一般学生と比較して日頃から地域防災活動に取り組んでいる防災リーダークラブ所属学生は防災意識、及び地域に対する評価・愛着にどのような違いがあるのか分析し、防災意識と地域愛着の関連性を明らかにする。また、両者の地域防災活動に対するイメージを比較することで、地域防災活動参加に対し影響を及ぼしている潜在意識を明らかにし、積極的な防災活動への参加を促すための方策を検討する。また、分析方法については6件法により得られたアンケート結果を平均値の差の検定を用いて分析する。さらに、各項目の関連性を明らかにするために相関分析を行う。

3. アンケート概要と分析方法

本研究で用いるアンケートでは、まず、アンケート対象者の防災意識を測るため、島崎ら¹⁾による防災意識尺度を用いた。これは「被災想像力」「現状危機感」「他者指向性」「不安」「災害無関心」の5つの下位尺度から構成されている。また、防災意識に影響を及ぼす要因として地域愛着に着目するため、引地ら²⁾の地域に対する評価・愛着に関する質問を用いた。これは「物理的環境に対する評価」「社会的環境に対する評価」「地域に対する愛着」の3つの下位尺度から構成されている。

4. 分析結果

まず、防災意識と地域に対する評価・愛着に関する各質問を平均値の差の検定を用いて分析を行った結果として、防災意識に関する質問では、20項目のうち10項目で有意差が見られた。その分析結果を表-1に示す。なお表中では防災リーダークラブをリーダーと記載している。有意差が見られた10項目のうち4項目が0.1%有意であった。その中でも、「現状危機感」、「災害に対する関心（災害無関心）」を問う質問ではほぼ全ての項目で大きな有意差が見られた。よって、防災リーダークラブ所属学生と一般学生との間では「災害に対する関心」「災害に対する危機感」において大きな差があり、また被災想像力、他者指向性、不安においても多少の意識差があることが示された。また、地域に対する評価・愛着に関する質問では、14項目中2項目のみで有意な結果となった。その分析結果を表-2に示す。さらに、有意な結果が得られた項目については、どちらも防災リーダークラブ所属学生よりも一

般学生のほうが地域に対する評価が高いという結果となった。

これまでの分析では、防災リーダークラブ所属学生と一般学生との間で、防災意識については明確な意識差が確認された一方で、まちに対する意識については大きな意識差が確認できなかった。そこで、防災意識とまちに対する意識の関連性を検証するために、相関分析を行った。その結果を表-3 に示す。表 3 より、地域に対する評価・愛着は、防災意識の中の「他者指向性」ともっとも強く関連していることが分かった。また、「他者指向性」について地域に対する評価は「被災想像力」に強い相関関係があることが明らかとなった。これらの結果から、「他者指向性」と「被災想像力」の項目において、防災リーダークラブ所属学生と一般学生との間で大きな意識差が確認されなかったのは、両者のまちに対する意識や愛着が同程度であったからではないかと考えられる。

表-1 防災意識の各項目の平均値の差の検定

		平均値		有意水準
		リーダー	一般学生	
被災想像力	問2	4.64	4.29	*
	問5	5.66	4.84	***
現状危機感	問6	5.70	5.38	***
	問8	5.55	5.17	**
他社指向性	問12	5.02	4.64	*
不安	問15	4.39	3.80	**
災害無関心	問17	3.16	3.75	**
	問18	3.18	4.15	***
	問19	3.59	4.03	*
	問20	1.66	3.07	***

表-2 地域に対する意識の各項目の平均値の差の検定

		平均点		有意水準
		リーダー	一般学生	
人々との交流	問6	3.05	3.60	*
イベント	問7	3.14	3.98	**

*:5%有意 **:1%有意 ***:0.1%有意

表-3 防災意識と地域に対する評価・意識の関連性

	1	2	3	4	5	6	7
1.被災状況に対する想像力							
2.現状危機感	.36**						
3.他者指向性	.23**	.25**					
4.不安	.33**	.16*	.15				
5.災害に対する関心	.13	-.16*	-.20	.03			
6.物理的環境に対する評価	.25**	.26**	.37**	.16*	-.06		
7.社会的環境に対する評価	.24**	.13	.31**	.11	-.02	.53**	
8.地域愛着に対する評価	.14	.19*	.29**	.19*	-.10	.60**	.59**

*:5%有意 **:1%有意 ***:0.1%有意

5. まとめ

本研究では、防災リーダークラブ所属学生と一般学生の防災意識、地域に対する評価・愛着の差異や関連性をアンケート調査により分析した。その結果、防災リーダークラブの活動のような防災に関して直接的なアプローチにより、防災意識の中の「現状危機感」、「災害に対する感心」の意識が向上することが明らかになった。また、相関分析の結果より地域に対する評価・愛着を向上させることで、直接的なアプローチではあまり向上させることができなかった「他者指向性」や「被災想像力」を向上させることができるということが示唆された。以上のことから、人々の防災意識を向上させるには、地域防災活動や講演会への参加といった直接的なアプローチと、地域の景観づくりに力を入れたり、住民同士の交流を増やすことにより地域に対する意識を向上させるような間接的なアプローチの2つを相補的に行っていく必要があると考える。

参考文献

1) 島崎敢, 尾関美喜: 防災意識尺度の作成, 日本心理学会第 81 回大会発表論文集, 2017
2) 引地博之, 青木俊明: 地域に対する愛着形成の心理過程の検討, 景観・デザイン研究講演集 No. 1, 2005